

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	比較居住文化小委員会	主 査 名：前田 昌弘 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (住宅計画運営委員会)	委員長名：小野田 泰明 主 査 名：清水 郁郎
設 置 期 間	2020 年 4 月 ～ 2022 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>人・物・情報が世界規模で行きかう現在、それらの要因に影響を受け、居住の質も劇的に変化している。こういった状況下、フィールドワークによる居住文化の研究および、それをもとした多様な展開を推進し、建築学の発展に寄与する。各年度とも以下の活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域に根ざした計画手法の集積および、その研究 2. フィールドワークによる居住文化研究に関する情報の発信 3. フィールドワーク事例の見学会の開催 4. フィールドワークを主体とした研究を行ってきた研究者による、研究の視座および方法論を紹介する書籍の刊行準備 5. 上記目的にそった拡大小委員会および公開研究会の開催 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：	
	<p>主査 前田昌弘 (京都府立大学大学院生命環境科学研究科) 幹事 栗原伸治 (日本大学生物資源科学部) 幹事 本間健太郎 (東京大学生産技術研究所) 委員 稲垣淳哉 (エウレカ/早稲田大学芸術学校) 井本佐保里 (日本大学理工学部) 上北恭史 (筑波大学芸術系) ヴァル・エリフ・ベルナ (東京文化財研究所文化遺産国際協力センター) 内海佐和子 (室蘭工業大学大学院工学研究科) 小林広英 (京都大学大学院地球環境学堂) サキャ・ラタ ((立命館大学 衣笠総合研究機構 歴史都市防災研究所) 清水郁郎 (芝浦工業大学建築学部) 那須聖 (東京工業大学大学院総合理工学研究科) 濱定史 (山形大学工学部) 山田協太 (筑波大学芸術系)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	「建築フィールド学」出版 WG：建築フィールドワークの拡張や実践への展開に関わる取り組みを集積し、新しい建築計画学の方法論を展望する書籍「建築フィールド学 (仮)」の刊行に向けた準備作業を行う。	
2020 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s25/

項 目	自己評価
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	

<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>当小委員会の活動の柱である各委員の海外都市・集落の調査研究やフィールドワークが新型コロナウイルスの感染拡大による海外渡航の制限により実質的に困難となったことを受け、当委員会の活動も今年度は、出版WGの開催を中心として、フィールドワークを主題とした次期刊行物の企画内容の見直しを行った。当初の活動計画は大幅な変更を強いられ、目標を達成したとは言い難いが、今般のコロナ禍を、フィールドワークの新たな形を模索するチャンスとして前向きに捉え、今後の活動に繋げる予定である。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コロナ禍を踏まえたフィールドワークの方法論の模索 2. コロナ禍を踏まえた刊行物企画の内容の見直し